

2015 年度 センター試験 地学 I (旧課程) (本試験) 分析

全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数 : 5 解答数 : 30 問
難易度の変化 (対昨年)	○ 難化 ○ やや難化 ○ 変化なし ● やや易化 ○ 易化
問題の分量 (対昨年)	○ 増加 ● 変化なし ○ 減少
出題分野の変化	○ あり ● なし
出題形式の変化	○ あり ● なし
新傾向の問題	○ あり ● なし
<p>総評</p> <p>例年通り、全ての大問が A・B のテーマに分けられて出題されており、全 30 問中 14 問が新課程地学と共通問題であった。昨年度の問題に比べ、標準的な知識を問う問題が増加し、全体的にはやや易化した。第 4 問 A のような、用語に関する正確な知識を必要とする問題や、正確に図やグラフを読み取る力を要求する問題が減少し、その分受験生は取り組みやすかったのではないだろうか。</p>	

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	地球の形とプレートテクトニクス A- 地球の形と重力 B- 海洋プレート	20 点	A. 地球の引力、重力、遠心力の関係と地球の形状に関する標準的問題とプレートの移動速度を問う標準的問題。 B. 地震波の速さに関する問題、アイソスタシーに関する計算問題で、いずれも標準的問題。
第 2 問	地球の構成や岩石 A- 岩石と鉱物 B- 地球の内部構造	20 点	A. 造岩鉱物と火成岩、火山岩の組織に関する標準問題 B. 地球の内部構造と化学組成、地殻を構成する岩石、海洋プレートの沈み込みに関する標準的知識問題。
第 3 問	地質と地表の変化 A- 地質図 B- 地球と生物の歴史	20 点	A. 地層の走向・傾斜、地質構造、放射年代に関する標準問題。 B. 地球環境の変化、各地質時代の生物と環境に関する基本問題。
第 4 問	大気と海洋 A- 低緯度の大気 B- 海水と海洋循環	20 点	A. 対流圏における水蒸気と温度の分布、大気の大循環などに関する問題。問 1 は正確な知識を前提に図を判読するやや高度な問題。 B. 塩分の分布、熱塩循環（海。水の大規模な循環）に関する標準的知識問題
第 5 問	宇宙 A- 恒星 B- 宇宙の構造と進化	20 点	A. 恒星の諸量（年周視差、明るさ）、HR 図の読解、恒星の進化に関する問題。問 1 は計算が必要とされる問題であった。 B. 膨張宇宙とハッブルの法則、天体の大きさと密度との関係、散開星団・球状星団、ブラックホールに関する標準的知識問題。